

傑作、その成就する場所ではあるまい。

だから、我は魂のあるお文さん其人をもう愛さぬ。唯只影のお文さん、則ち一葉の寫眞、其寫眞に自分の理想の魂を入れて、今も尙肌身離さず大事に大事に持つて居る。

お文さん、お前はこれだけ本心を明かしたのを聞いて、何んと思ひだ。今更後悔しても駄目、今更後悔しても駄目。山北水南は潔癖のある男だ、一度曇つた鏡には、顔を寫すも厭だ！厭だ！

* * * * *

萩は矢張二株三株、一面の原は元の狭き庭だ。月は隣家の二階の後へかくれて、僅に青桐の頂きの葉が光を受けて居るばかり、小家もなければ、お文も居ない。我は二株三株の萩の中に寫眞を持つた儘倒れて居たのだ。母上に呼ばれて、それは、酷い目に呵られて、又もや私の大嫌ひな、鐵の窓のあつた狭い二疊敷の部屋に入れられた。翌日は巢鴨とやらへ遣られるさうだが、其所はどんな所であるか、恐らくは其所も山北水南が熱血を濺いでの大

狂詩人

田山録彌

おぼつかな散らんとすなる白萩に
月さへさゝずなりにけるかな

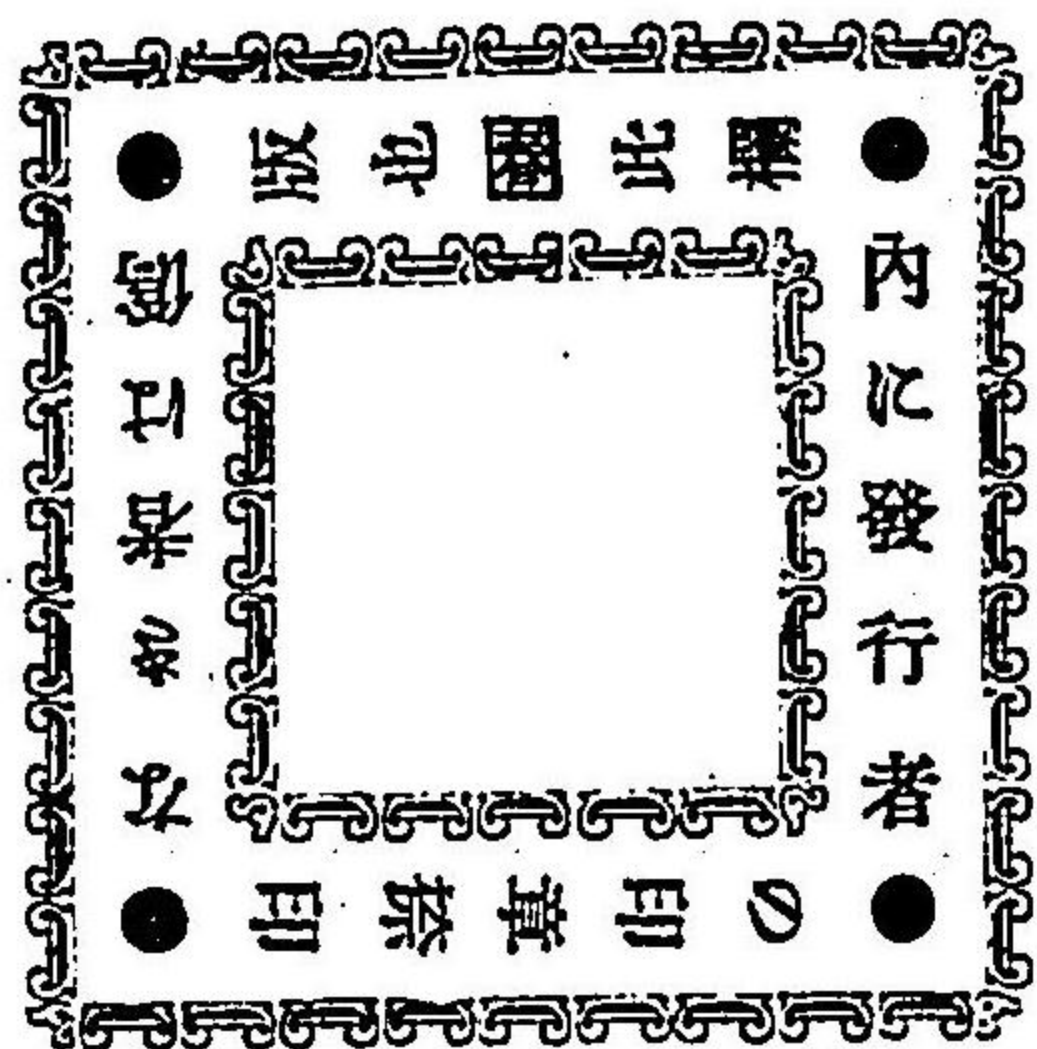
狂詩人終

小説水車奥付

實價金三十拾錢

明治二十八年七月卅一日印刷
同年八月四日發行

版權所有



著者 江見水蔭

發行者 和田篤太郎

印刷者 根岸高光

發行所 春陽堂

印刷所 東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地
株式會社 秀英舎第一工場
(電話十九番)

特別割引箋

稟告

- 一 江湖御花主様方の御取立により日に倍し盛大に相成奉深謝候向世運風潮に先立ち文學社會に輝々たる大家方の手に成る新規新案の原稿相遺ひ挿圖製本に注意し逐次出版致候間愛顧諸君方倍蓄御愛護の榮を給はらん事を希望仕候
- 一 此寶似書目の外百般の書籍は御命令に隨ひ御取次仕候間書名若著出版大等御罷載御注文願上候尤も直段は無油断他店より一層廉價に相働き候間自然高價にも差上候時は御申越次第直引可申候
- 一 送金方は内國運便早送又は銀行或は江戸橋郵便本局宛等のうばせにて何れも前金に御願申上候
- 一 御注文書若三日以内に必ず出荷可仕候
- 一 此切取紙へ品物御書入御注文の御方へは該寶似書目の内特別一割引にて御送り申上候
- 一 郵券代用は一割増にて願上候
- 一 宿所姓名は可成御明瞭に楷書文字にて判然御認願上候
- 一 御親友御同僚中小説雜書御愛讀の御方の宿所御姓名御通知願上度拙店より早速書目御送り可申候
- 一 前件申述候通り下段及裏面に書入場所有之候間御注意願上候

東京日本橋 春陽堂 和田篤太郎
通四丁目角 電話五十一番

切取線

御注文主氏名	書籍を購せらるる諸君の住所氏名

新刊豫告

<p>櫻痴居士作 水野年方書</p> <p>伏魔殿</p>	<p>弦齋居士作 鈴木華郎書</p> <p>朝日櫻</p>	<p>日就社懸賞小説水野年方書</p> <p>瀧口入道</p>
<p>櫻痴居士著 筒井年峯書</p> <p>豐島嵐</p>	<p>三味道人著 渡邊省亭書</p> <p>目黒物語</p>	<p>澁柿園主人著</p> <p>最上川</p>
<p>以心庵著 筒井年峯書</p> <p>不鳴鶴</p>	<p>石橋忍月著</p> <p>夏祓</p>	<p>眉山人作 水野年方書</p> <p>うす墨</p>
<p>三味道人作 武内桂舟書</p> <p>鬼一口</p>	<p>村井弦齋作 富岡永洗書</p> <p>譽の兜</p>	<p>加藤紫芳著 稻野年恒書</p> <p>臺灣陣</p>
<p>尾崎紅葉著</p> <p>冷熱</p>	<p>江見水磨作 武内桂舟書</p> <p>水車</p>	<p>眉山人作 武内桂舟書</p> <p>夏草</p>

中等教育教科書及參考書

東京英和學校教授松島剛著 文部省檢定済

近世地理學

訂正 四版

日本之部 大本美製石版地圖十九葉挿入 實價九十八錢 郵稅十六錢

發兌以來日尙淺しと雖大に地理學者の賞賛を博し教育界の歡迎を受け新編雜誌の好評を蒙り博士地理學として噴出せらるるの光り遂に書林社會に於て 博士地理學を得たるは實に本書に在り地理學とす且其巻帙の壯麗なる材料の豊富なるも其價の至廉なるを以て天下の書肆を噴若ならしめたるは實に本書近世地理學に在り而して今や 文部省の檢定を経て 中學校附屬學校の教科用書たるに最も適當なるの稱を得たり併て普通讀者の參考者多年の刻苦經營に成り 原田豊吉君 中央氣象 中村精男君 植物業者 三好 學君 帝國大學教授 元良勇一郎君 教育 田中登作君 同杉山文悟君 同大矢透君 和學 鈴木弘恭君 學士 三成文一郎君 水産 關澤明清君 博士 巨知部忠承君 工學 小杉徹三郎君 理學 神保小虎君 北海道廳 水科七三郎君 農學 堀正太郎君 東京英和學校教授 井覺君 帝國大學北原多作君 專門家の贊助校園を得たれば其精確新穎なる事は之を諸新聞雜誌の公評に委して更に喋々を要せず隨白。

中等教育教科書

<p>部之國外 紙數三頁</p> <p>松島剛著</p> <p>改訂 近世中地理學</p> <p>全洋裝美本 十冊地圖各 冊數數十冊 實價各十錢 郵稅九錢</p>	<p>部之本日 紙數二百六頁</p> <p>松島剛著</p> <p>改訂 近世中地理學</p> <p>全洋裝美本 十冊地圖各 冊數數十冊 實價各十錢 郵稅九錢</p>
---	---

本書ハ近世地理學ノ著者松島先生ガ弘ク詳クナリ深ク中外ノ形勢ヲ觀察シ多年ノ刻苦熟案ニ成リシ者ニシテ近隣諸國南洋諸島深洲ハ勿論歐米諸國ノ地勢民情物産物交通貿易軍備等ノ要領ハ悉ク漏ラサス殊ニ内外ノ位置交通及貿易上ノ關係ノ如キハ一々之ヲ標シテ彼レ此レ相照應セシメ讀者ヲシテ知ラズ識ラズ海外列國ノ盛衰及本邦トノ關係樹勢ヲ解ラズシムルノ妙アリ工業貿易及殖民ノ將ニ盛ナラントスルノ今日ニ當リ此書ノ出ヅル豈偶然ナランヤ。

東京春陽堂發行書目之一

現今世に行はるる物理學の書其數少なからずと雖も或は得たるもの甚だ稀なり本書は主として此等の中を精選し其の精華を採りて高尙なる學說を掲げ以て參考に供す

近世物理學 二冊 實價金一圓七十錢 郵稅 二十錢 郵券代用 一割増

本書は論議にあらざるも卓絶なる新譯國語の學說より其精華を採りて高尙なる學說を掲げ以て參考に供す

近世小地理學 實價八十錢 郵稅十二錢

外國ノ部大地圖十四枚 密畫數十個 挿入右二冊ハ改正中學課程に從ひ

近世地文學 再版

全一冊 紙數二百三十四頁 地圖十二枚 密畫六十四枚 挿入實價六十八錢 郵稅十錢

萬國史要 第十版

全一冊 或は分本三冊 全部實價金一圓二十錢

近世化學 實價九十錢 郵稅十二錢

本書は理論及實驗ヲ網羅セルモノナリ

應用數學三千題

新撰數學五千題

上卷 正價廿二錢 郵稅四錢

數學五千題解式

珠算五千題

小學珠算題叢

四則二百五十餘集

大島孝造著 定價九錢

新式算術

宮本久太郎著 定價未定

最近物理學之著はして理學社會に一機軸を出し、然るに其活眼を平常嗜好推考せる所の數學界に披きて、世間普通の教科書參考書等の弊を觀破し、今第一若手として本書の著あり其例題の適切なる說明の丁寧簡明なる蓋し修學者の指南車たるものは本書を措いて他にあらざるべし。

松島剛著

小學地圖集覽

全一冊 實價各廿五錢 郵稅各四錢

日本ノ部大阪地圖十一枚外國ノ部大阪地圖七枚此圖ハ偏ニ小學兒童ノ課業用ニ充ンガタメニ出版セラレタルモノニシテ、勉メテ兒童ノ視力ヲ害セサル様ニシ且ツ地圖ニ必要ナル條件ハ大抵之ヲ備ヘタリ、徒ニ無用ノ地名山川ヲ排列シテ兒童ノ視力並ニ精神ヲ害スルガ如キ地圖ト大ニ其撰ヲ異ニセリ教育家ノ鑑識ヲ乞フ。

小說稗史

寸珍の冊子四種の好文を萃めて、家々案上の清玩に足る、其文品を論ぜば、紅白毒優頭は織密、伽羅物語は清奇、花くもりは織優、女の顔は洗煉。



紅武袖實 武内桂舟 實價卅五錢 郵稅六錢



伽羅 實價卅五錢 郵稅六錢

尾崎紅葉氏常に好で短編を綴る、數年の著作五十餘種に及ぶと雖も、未だ曾て伽羅枕の如き長編を見ず、金剛石の徑一寸なるもの、特に寶惜すべきなり、而して其着想は濃麗婉約其行文は瘦勁清深所謂紅葉山人の體裁收めて此一巻に在り製本クニス金文字入大本。

日本之部

世界圖 亞細亞圖 日本の脈圖 同温帯圖 海流圖 火山線圖 湖盆圖 植物分布圖 軍備圖 日本北部圖 東北部圖 中部圖 南部圖 四南部圖 三府五港圖 本書の特色は(一)土地の高低一目瞭然たり(二)人口一百万以上の市町村は圖を披けば即特に判然掌を指すが如く小學の兒童も指摘に迷ふの恐なし(三)特色優雅にして野鄙ならず故に之を小學校、中學校、師範學校等に用ゆるも或は士君子の座右に備ふるも最適當の良書なり。

内地地圖集覽

附錄 世界各大洲、山川、人口、產物 分一冊 實價四十五錢 郵稅八錢

本書の特色は日本地圖集覽に屬する特色の外に「近隣諸國及南洋諸島の別地圖を載する」と是なり松島の特に思ふ致せること此點にあり日本製的地圖集覽にて此の如きは世間絶無なり坊間普通の地圖に比して天地の相違あり之を小學校、中學校諸學校に用ひて最適切なるのみならず經世家、貿易家等に資するも少からず。



紅葉山人作 實價三十錢 郵稅四錢

片断は、何者とも知らず、何處より來れるとも分かず、忽然として深夜の門を叩きし一女子が好顔の特點なり。春日蘆舟は渠の幸領として、野河に幾十日の眠食を興にしたりしも、竟に其正體を觀破することなくして己みだき。これを果して蘆舟が眼の不明なるかは、た片断の變幻自由なるかの十三行二十七字の百六十頁は婉々之を語りて、遠處を雲烟模糊の間に指點すべし。



紅葉山人作 實價卅三錢 郵稅六錢

此は紅葉山人得意の作にあらざると雖も、其生平の苦吟運筆に似ず、三日半夜にして一氣呵成せるもの、輕々若筆して意を經ざる裏、自づから氣韻の生動せるを覺ゆ。

四則二百五十餘集

新式算術

大島孝造著 定價九錢 郵稅二錢

小學地圖集覽

全一冊 實價各廿五錢 郵稅各四錢

小説稗史

紅武袖實 實價卅五錢 郵稅六錢



尾崎紅葉氏常以短編を綴る、數年の著作五十餘種に及ぶ...



紅武袖實 實價卅五錢 郵稅六錢

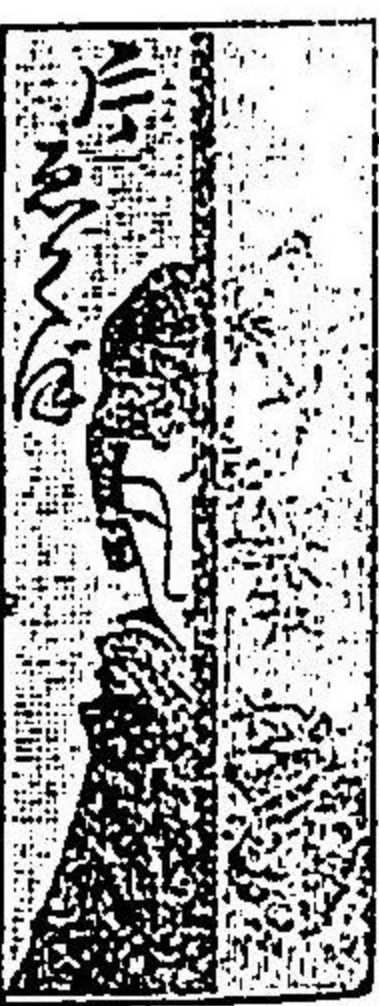
外國之部

世界各國、山川、人口、産物、分一冊、實價四十五錢、郵稅八錢

日本之部

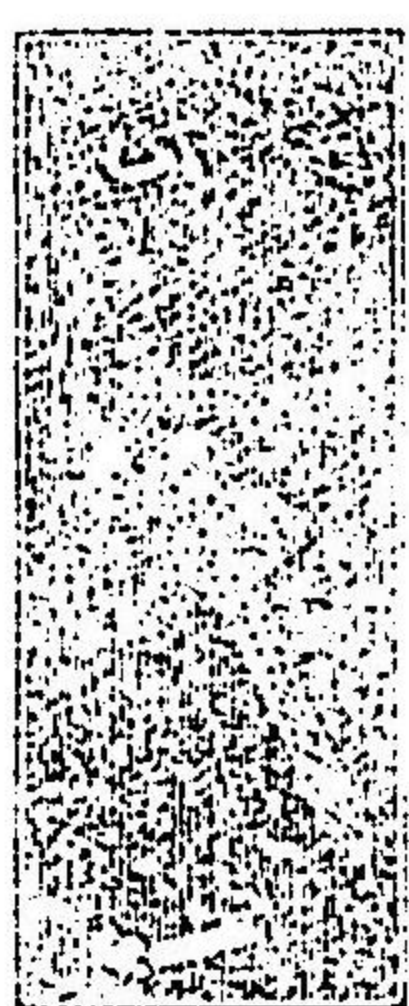
世界圖、亞細亞圖、日本の脈圖、同温帯圖、海流圖、火山線圖、湖盆圖、植物分布圖、軍備圖、日本北部圖、東北圖、中部圖、南部圖、西南部圖、三府五港圖、本書の特色は(一)土地の高低一日際然たり(二)人口一百万以上の市町村は圖を披けば則ちに列然乎指すが如く小學の児童も指摘に迷ふの恐なし(三)着色繪圖にして野鄙ならず、故に之を小學校、中學校、師範學校等に用ゆるも或は士君子の座右に備ふるも最適當の良書なり。

松島 内外地圖集覽



紅武袖實 實價卅五錢 郵稅六錢

片は、何者とも知らず、何處より來れるとも分らず、忽然として深夜の門を叩きし一女子が好顔の特點なり。春日菴舟は渠の宰領として、野に河に幾十日の眠食を興にしたりしも、竟に其正軀を觀破することなくして己みなき。これや果して菴舟が眼の不明なるか、は九片の變幻自由なるか。十三行二十七字の百六十頁は妮々之を語りて、遠き雲烟微鞠の間に指點すべし。



紅武袖實 實價卅五錢 郵稅六錢

此は紅葉山人得意の作にあらずと雖も、其生平の苦吟運筆に似ず、三日半夜にして一氣呵成せるもの、輕々若筆して意を經ざる裏、自づから氣韻の生動せるを覺ゆ。

新色懺悔

新色懺悔は著者が讀賣新聞紙上に曠足を展べ得たる第一着の叙情小説なれば、其落想の奇、觀察の精、行文の妙知るべきなり。



紅葉山人作
武内桂舟書
實價廿五錢
郵稅四錢

命の安賣

命の安賣は文學世界之内、紅葉山人作、武内桂舟書、實價廿五錢、郵稅四錢。此編に於て盡せりと謂ひつべし。



女の隣

紅葉山人作
武内桂舟書
實價三十錢
郵稅六錢

雪と見紛ふ櫻の木蔭に、數奇悉したる一掃の主や、誰ぞ、嬋娟花の如き美人なるか、魁偉無雙の如き醜婦なるか、或は世に捨てられし尼なるか、或は世に出でたる流の身なるか、奮肆も知らず、書工も知らず抑も著者の心を知るものは、巻を繰り讀者なるべし。



病

紅葉山人作
實價十錢
郵稅四錢

此編唯甲乙の談笑し、張李の怒罵するを聞くのみ。敢て叙事の筆を費さずと雖も、口氣氣に逼りて、思や、嬌や、癡や、頑や、眉目自から書くが如く、一舉一動躍々として已に不説の間に盡せり、紅葉山人が文と才とを打して一九の土の團子即ち是なり。

紅鹿子

紅鹿子は夏瘦關東五郎の二編より成る、前者は燭を乗りて雨後の海棠を看むが如く人の忽ち消魂せざるはなし。後者は什麼、全然面目を一變し來りて、潤頭月白く松影黒き處、怪禽一聲耳を掠むに似たらむか。讀者巻を捲ふて悽然たるべし。



紅葉山人作
武内桂舟書
實價廿五錢
郵稅四錢

男心は東家西家の一小茶話に過ぎざるなり。一の奇なる無く、談更に傳ふべきものあらず。文は坦々として險語を見ず、易々として警句を挿まず、譬へば柳外風度り、月下に水の流れむが如し。若夫披讀一遍せば、筆々傷まざる無く、悲まざる無く、言々愁へざる無し。蓋し情の最も切にして、文の最も至れるもの乎。



夏無名氏書
實價廿五錢
郵稅四錢

覆而の武士あり、一時辻斬を試む。刀利魔の如く、手録殆ど神なり。燈るもの夜々幾百人、而して俊影の捉ふべき無く、天下爲に騷然たりし、匿名出版の奇書即是なり。

なにがし

紅葉山人作
鈴木華村書
實價三十錢
郵稅六錢

「なにがし」二巻は豫備兵義血の二篇を收めたり。冷々氷の如き豫備兵は、報國の熱によりて其身を燃き、烈々火の如き俠人は然諾の重きが爲なる、其境に應じて熱たり冷たりと雖も、感ずる所は一片の意氣なるのみ。百八十頁の快語は此意氣を説明して、迅雷、奔流、天を碎き、地を劈く概あり。若夫巻を披かば想に鬼氣ありて毛髮に逼り、文は異彩を放ちて顔色を照さむ。

かた糸

かた糸を彼方此方によりわけて、糸たか... 文學世界之内... 連山人作... 實價八錢



五月蠅の世の中を、標外一葉の芭蕉の蔭に避けて、... 櫻痴居士作... 實價廿五錢

積櫻痴放言

法螺でかためた浮世を吹き飛ばさんとして、櫻痴居士... 實價三十錢



浪六氏が引絞つたる満月の弓勢、其三の矢として... 實價三十錢



たそや行燈の影暗きところ、鬼が出るか佛が出るか... 實價三十錢

櫻痴新編

櫻痴新編... 櫻痴居士作... 實價廿五錢



徳兵衛何人ぞ、或は俠客の如く、或は海賊の如く... 櫻痴居士作... 實價三十錢

夜嵐

夜嵐や大閣様の櫻狩、其花やかさに優れど劣らぬ... 實價廿五錢



鬼奴の快男兒たる、窺窺婦女の如き主に使へて忠... 實價廿五錢



打ては轟く山鹿流の陣太鼓如何なる音をや出すら... 實價廿五錢

二十内之日書行發堂陽春京東

三十内之日書行發堂陽春京東

三日月の影にテラと見えし、世人が待ち待つて、
 て、イヤノ、と焦れたる女、文致意匠は更に喋々
 め、表紙口帯等の刷、如きあらず、且御断り申
 上、女之助は男なり、此書、姿ばかりを見て、浮
 ぞ。

主も取らず君にもつかへず、
 涙を、ザンブ、と双膝を蹴、
 儀をも恐れぬ六尺の渾身を、
 ころりとさして、只無茶苦茶、
 男見、深見重左が半生を例、
 描き出でたる大々文字なり。



安田 ちねの浦浪六作
 渡邊省亭密齋
 實價三十錢
 郵税四錢



深見 武村上浪六作
 實價廿五錢
 郵税六錢



井筒 水野年方六作
 實價三十錢
 郵税六錢

此書は大名の奥と表との昔の様を寫せし滑稽なれ
 ば新奇の趣向、妙の筆録を以て、如何なにかむし
 家なりとも、抱腹絶倒に堪へざらむべし一讀し
 て其蘆ならざるを知ら給ふべしと申す。



鎌倉 武定 新作十二番之内
 南野新二
 水野年方
 定價卅三錢
 郵税共

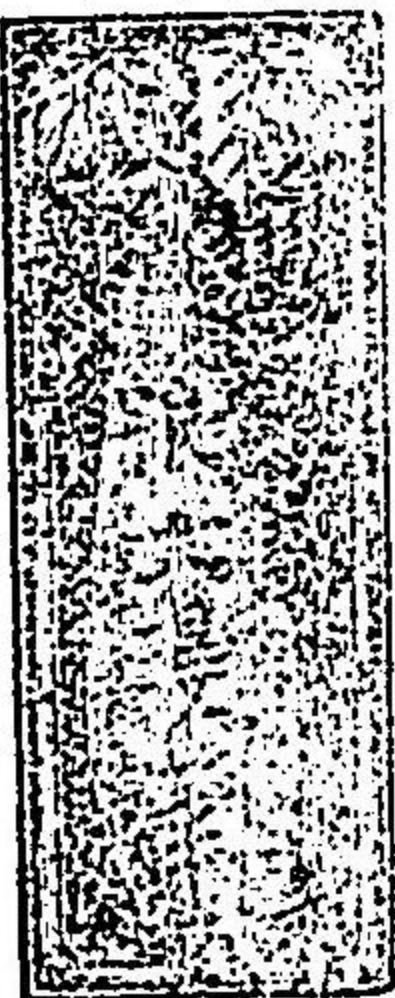
「かゝり舟」の波に騒ぎ、「撫子」の露に咽び、「渡津」
 のさしも月に色めきて、「春の花」に斧ひく柴車
 一巻となれり、奇嬌凄婉、句々悉く清實の價を語
 るに難からず。

元龜天正に明智が三羽鳥と唄はれしその一羽の勇
 士、本能寺の一番斬して、田信長に槍をつけし曲
 者、死して亂臣賊子の墓を、靈前の唐津に殘せしが、
 いま浪六氏の筆に吊はれて、懐可憐の老武者とな
 りぬ、あはれ世に幾多の才子佳人よ、月雪花に飽い
 て夜静なる枕頭、燈火の影に、緋の影に、三百年の昔
 を忍び、鬼の目より、涙を今に汲み



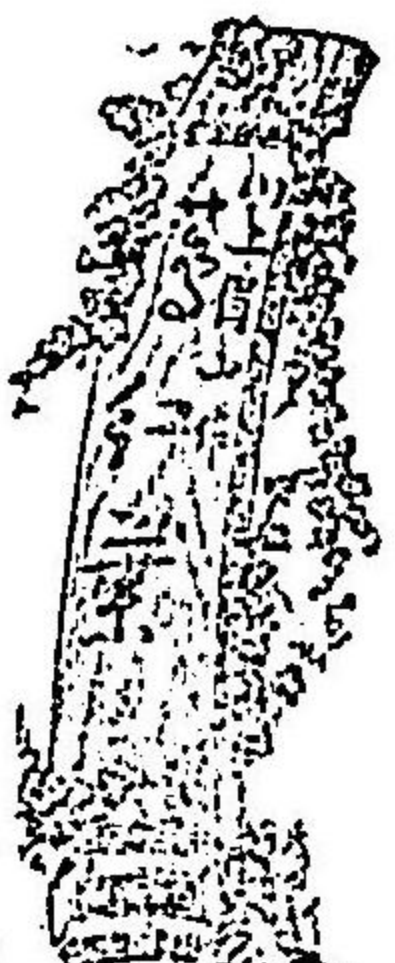
川上 眉山 作
 實價二十錢
 郵税六錢

白髭の森に俗塵を避けて、墨水の流に錦腸を洗
 滌、夜々筆を執つて漫筆を草す、風蕭々として雨
 の飽たると、御若衆の麗となり、更に鬼の念佛の
 の如く、世間を恐れず、而して桂舟子大津繪の活幅
 又近時、双と稱せらる。

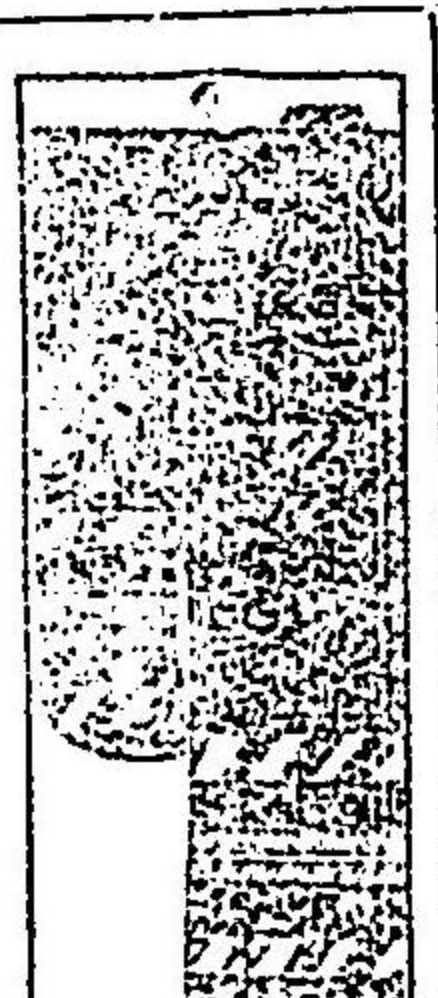


浪六 武村上浪六作
 實價三十錢
 郵税六錢

三年味、晴風の二篇は合して、紅葉となれり、こ
 れ、山人が當年の傑作、青嵐は浮世の裏に潜む美
 人の怪を寫し出し、窈窕たる處女が其渦中に苦
 められ、然かも汚穢に染まざる一點の靈を點出
 したり、三年味、蓋し山人得意の所なるべし。



川上 眉山 作
 實價二十錢
 郵税四錢



川上 眉山 作
 實價二十錢
 郵税四錢

二枚拾は白藤股襪の二篇より成る。婉曲清潔、入
 神の筆を以て、優婉に宛轉たる情思を描き、
 白藤の委して、後國風急にして、花を落る事類に、
 地に委して、空しく香魂の泣くを見、句々悉く詩
 壇の異、彩りに至りては、着想高潔、行文幽秀、
 思一、仔細に、作者が理想の那邊にあるを、味ひ來
 らば、無渺たる神韻の更に幽宮の消息を傳ふるも



田邊 太一 君 著
 實價十五錢
 郵税四錢

こはもと野草のみだれ、牛かふ童の熊手の先に
 加りて、掻い捨てられ、牛かふ童の熊手の先に
 人の訪ひ來て、我がまど賑はさん、のたきつけにも
 きふしは、少なからず、書いたわたり、谷は、見るべ
 丁々子 自識



塚原 澁柿 園 作
 實價卅五錢
 郵税八錢

武士にして、武士にあらず、俠客に似て、俠客にあらず、
 伊賀の山中より、フラーと出て來たる猪の介殿、
 名は恐ろしく、懐まじけれど、姿は月をも花を欺か

六十内之目書行發堂陽春京東

大原海久末廣銀腸作
紙數二百八十頁
郵價八冊八錢

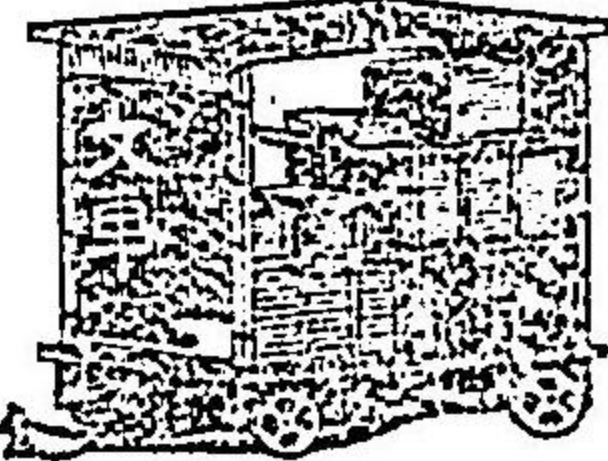


さらし井は、所青山百人町の古井戸より、明治の
今の世に出でたる調樓一塊、奇遇は道具屋の隠居
の漸愧より、畜生郎の嗜昔顯然なり。寒紅梅は、
降積雪の中、紅一點、元龜天正は男まさりの女
子を生みて、最愛の夫の怨讎を討ちたる天晴の身
の、置き處はあれど義理の欄干くよしもなくて、

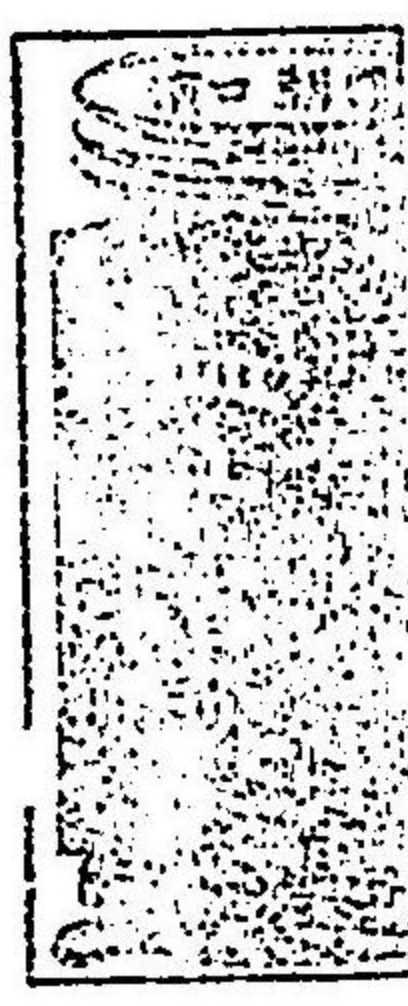
中村花瘦作
武内桂舟書
定價廿五錢
郵稅六錢

七十内之目書行發堂陽春京東

此冊子は南新二
翁がやまと新聞
に執筆のいとま
書き置かれたる
数種の小説を拾
ひあつめて一冊
となせしものゆ
へ文車といふ外
題の如く長きあり短かきあり或は滑稽或は慈善喜
怒哀樂を綴りしなれば一と度紐解けばかの千金
といへる春宵も物かは暫時も措くべからざる好冊
なり。



南文實郵
新車價稅
二冊卅八
作畫錢錢



三遊亭圓朝作
水野亭方
全野二年方
郵價卅五錢
稅八錢

衰れや三河は大樹寺の墳墓に、昔を今の餘香を殘す。

辻占賣

淡路島通ふ千鳥の戀の辻占と、悲し氣に叫ぶ聲は
己に人の腸を断たしむるに、知らぬ母に向ひ父の
薄命を説くの條、字々皆血句々悉く涙、人も泣き
我も泣き然して讀者の涙は絶えんとす。



市川新藏作
口書桂舟挿畫自作
枯實價廿
郵稅四錢

三遊亭圓朝子は尋常落語師の伍にあらず、其高坐
に上りて演ずる時には、綺想佳話口吻をついて出
で、人をして身の寄席にある事を忘れ、美人をし
して泣かしめ、稚兒をも又泣かしむるの妙あり。
菊模様山奇談は、子が得意中の尤も得意なるも
のなれば、其豊富なる繪巻は、溢れ出で、此冊子
に凝結したるものと云ふべし。

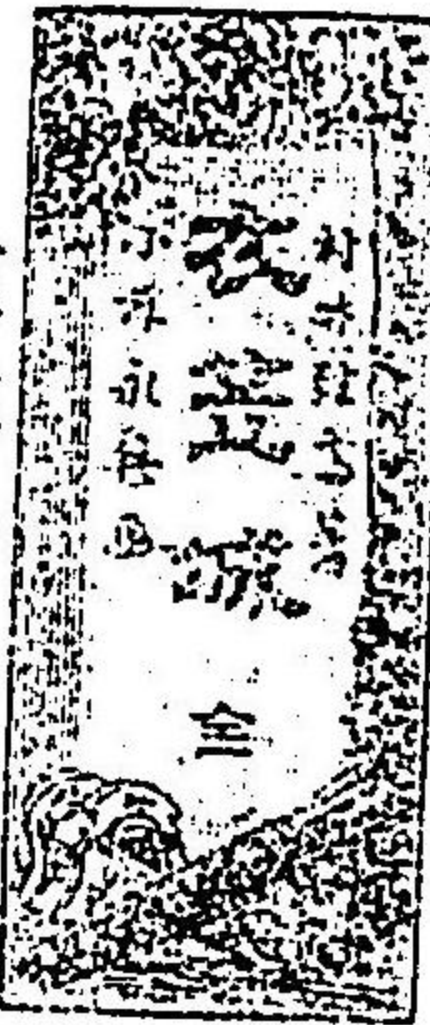
見切武内桂舟書
物實價三十錢
郵稅六錢

是亦紙屑の上へ繪具皿をぶちまけたるもの題して
見切物と云ふと雖も夜店の半大根にあらず一山百
文と申しては本屋真利に盡くることあるべし依て
餘義なく實價三十錢を申受く郵稅六錢なり。

若高瀬文淵著
三島蕉窓書
實價廿五錢
郵稅六錢

錦の舞衣

は圓朝子が一世的佳作にして、天明寛政文化文政... 武内桂舟書 實價廿五錢 郵税六錢



城笠衣 村非弦齋著 實價三十錢 郵税六錢

國亡ひて山河あり、衣笠山の月は轉た三浦家... 武内桂舟書 實價三十錢 郵税六錢

臥待月

臥待月は南翠外史が著す所、當代の紳士令嬢の... 聚芳十種の内 實價四十錢 郵税四錢

闇中政治家

慷慨悲憤の士あり、時を慨し世を憂ひ、一身を... 闇中政治家 實價四十錢 郵税四錢



遺の露 武内桂舟書 實價三十錢 郵税六錢

戀に二種あり、一は天女ウラニヤの謂る所にして... 武内桂舟書 實價三十錢 郵税六錢



荒南翠外史著 久保田米仙書 實價三十錢 郵税六錢



半塚麗水作 三島蕉窓書 實價三十錢 郵税六錢

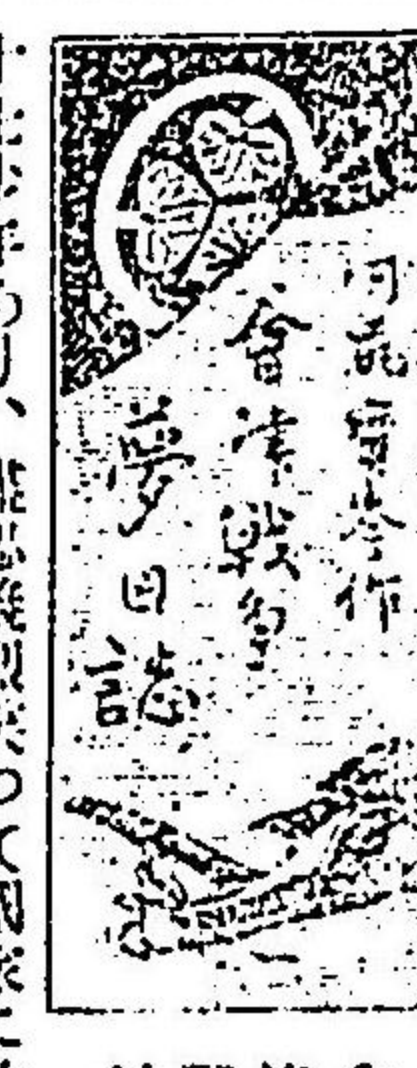
征清の軍未だ央なる今日此頃、巍然天際を凌いで... 武内桂舟書 實價三十錢 郵税六錢

やたらと

題してやたらと... 聚芳十種の内 實價二十錢 郵税二錢



得知翁が滑稽は終に浦島太郎の身の上の情、噴飯... 聚芳十種の内 實價三十錢 郵税四錢



河尻雲峯作 小林永興書 實價二十錢 郵税四錢



野試合 文學世界の内 江見水彦作 郵税二八錢

豊臣太閤裂封册 河原實作 郵税四錢

豊臣太閤裂封册 河原實作 郵税四錢

猿面冠者

元は土民筑前朝の怪れ、一朝風雲に際合して...



猿面冠者 文學世界の内 山田美湖作 郵税二八錢

櫻御の所 定全富 郵税八冊

雪なるま 聚芳十種の内、光陰陸離として...

夜月朧 富岡永洗書 郵税八錢

鬼車 鬼 郵税六錢

水沫集 森岡外作 郵税十六錢

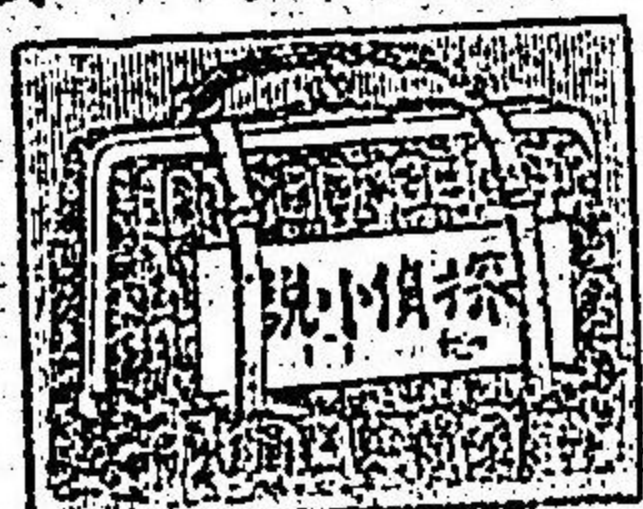
水沫集 森岡外作 郵税十六錢



文藝學界 半紙木版摺彩色 表紙照美本各一 冊讀切實價八錢 郵稅二錢宛

數錢の金に可憐大丈夫が便々たる腹割さばいたる 奇談を始めとして、古英雄の胸腹を割りたる猿面 冠者の快よき、かた糸辻占賣の哀れに悲しき、か くれんぼの不思議なるは正太夫が洒落の筆にな り、野試合の勇ましきは水蔭子の健筆に依つて描 かれぬ、ひつじかひは牧童の可憐なるを寫したる 松華菴の理想殆んど神に通じ、今深雪の哀れなる は雪に暮れ行く漁村の寂しきが如く、乙羽菴のあ もひ川、露友子の神も佛も及び柳涙子のいと見 の三編は筆力勇健にして天馬の空に騰るが如く、 又嫦娥の蒼穹に戯むるの情趣あり。

- 第一 紅葉作 命の安賣 全一冊 讀切
- 第二 山人作 猿面冠者 全一冊 讀切
- 第三 妙齋作 かくし妻 全一冊 讀切



探偵小説 第一集 全一冊 讀切 郵稅二錢宛

立案新奇にして能く人の意表に出で、讀者をして愕然、惘然、愕然、呆然、身其の境に在りて、心其の局に迷ふが如くならしむるは探偵小説に如くものなし。方今感情的小説の流行太甚だしく、事實の小説全く形を缺めてより、世間人心を活殺する底奇譚に渴すること久し。此の書は専ら道般の需要に供せんが爲に、特に脚色の奇絶妙絶拍案三嘆に堪ふべきものを粹撰し、平易の文章を以て自在に亂麻の活劇を描き去り、毎號一卷

幼稚園

幼稚園 四六版美本 實價各七錢

本編は巻を逐つて逐次發行するものにして小學児童諸君の教師たり朋友たるべき良書なれば一枚置きに色摺の石版畫を挿し、平易簡潔な尊び學教訓の實品に實に適用又は家庭用の餘方今兒童用の書籍夥しと雖も實に此幼稚園に勝るの良書あらざるべし。

- 第四 巖谷連作 かねた 全一冊 讀切
- 第五 忍月作 辻占 全一冊 讀切
- 第六 正直作 かねた 全一冊 讀切
- 第七 大直作 かねた 全一冊 讀切
- 第八 水見作 野合 全一冊 讀切
- 第九 松華菴作 ひつじか 全一冊 讀切
- 第十 金子作 今みゆき 全一冊 讀切
- 第十一 春人作 おもひ川 全一冊 讀切
- 第十二 乙羽菴作 無しり 全一冊 讀切
- 第十三 柳浪作 いと 全一冊 讀切

高等探偵 木戸少佐 大木少佐 戀の妖薬

高等探偵 木戸少佐 大木少佐 戀の妖薬 定價十八錢 郵稅四錢 全一冊 讀切

讀切として、福窓、汽船、汽車、馬車中の好伴侶たらん事を期す。去れば其價は及ばむ限り最低額となし、以て讀過一番の後は途上に棄却して、些の遺憾なからしめんとす。

- 一 探偵小説 全一冊 讀切 郵稅二錢宛
- 二 紅葉作 命の安賣 全一冊 讀切
- 三 山人作 猿面冠者 全一冊 讀切
- 四 妙齋作 かくし妻 全一冊 讀切
- 五 巖谷連作 かねた 全一冊 讀切
- 六 忍月作 辻占 全一冊 讀切
- 七 正直作 かねた 全一冊 讀切
- 八 大直作 かねた 全一冊 讀切
- 九 水見作 野合 全一冊 讀切
- 十 松華菴作 ひつじか 全一冊 讀切
- 十一 金子作 今みゆき 全一冊 讀切
- 十二 春人作 おもひ川 全一冊 讀切
- 十三 乙羽菴作 無しり 全一冊 讀切
- 十四 柳浪作 いと 全一冊 讀切

目次

- 支那手柄はなし 全二冊
- 歴史繪はなし 全二冊
- 修身繪はなし 全二冊
- 鳥づ 全一冊
- 獸づ 全一冊

十三内之日書行發堂陽春京東

庭嬰 小部廿卷合卷五冊 全一冊
 實價 凡二千二百錢
 運賃 廿錢
 狂言百種 故河竹默阿彌作 各實價二十錢 郵税六錢

全部目錄

- 第一集 玉座 徳の月 下宿屋 走馬燈 摺へ所 他山
- 第二集 水の流れ 縁理の榊 隙際小脱目鏡 臨落の囀
- 第三集 原因 喜恩に酬 影法師 ムツカシヤ 軒の垂水
- 第四集 追取息子 時の用 振分道 人の行末 文の問
- 第五集 夜の手相 柳の車 中よし 擬博多 時雨の
- 第六集 煩悩の月 腹の子 大石真虎の傳 當世寫眞鏡
- 第七集 暗の鳥 縁の糸 めし損 當世寫眞鏡 孝女
- 第八集 幸ひ 作り菊 糸の乱れ 當世寫眞鏡 苦菜
- 第九集 蓮葉娘 對扇 紅葉 小町娘 新殺生石 川添
- 第十集 柳 驅めぐりの記 鹽原入浴の記 秩父銀行 房
- 第十一集 州紀行 水曾道中記 かしほ草

一十三内之日書行發堂陽春京東

- 第五號 勸善懲惡孝子譽 五幕 全一冊
- 第六號 新皿屋舗月雨暈 三幕 全一冊
- 第七號 三人吉三廓初買 七幕 全一冊
- 第八號 水天宮利生深川 三幕 全一冊
- 身光於竹 功二幕



小諸大家傑作
 諸方密書
 石版一冊
 實價六十二錢
 郵税六錢

新案は、命名して小説家選と云ふ、片雲の走過
 するは、短篇が如く、或は夏月の洒落なるが如く、
 花の嬌婉たるが如く、或は枯木の慘慄なる
 或は南風の蕭條たるが如く、或は枯木の慘慄なる
 が如く、或は南風の蕭條たるが如く、或は枯木の慘慄なる
 迫り、篇を重ね、少許の遺、或は枯木の慘慄なる
 なき、時を二三多き時は、或は枯木の慘慄なる
 り、篇を重ね、少許の遺、或は枯木の慘慄なる
 網羅し、盡して、少許の遺、或は枯木の慘慄なる
 きが故に、一本を購つて、春雨の軒、蛙鼓を奏す
 乞ふ首巻一本を購つて、春雨の軒、蛙鼓を奏す
 の窓下に試みるべし。

次目部全選家百説小

目第十五次卷	目第十四次卷	目第十三次卷	目第十二次卷	目第十一次卷	目第十次卷	目第九次卷	目第八次卷	目第七次卷	目第六次卷	目第五次卷	目第四次卷	目第三次卷	目第二次卷	目第一次卷
手女	女めく	ぬ此平	不十	五銀	遊貴	男局	草	草	草	草	草	草	草	草
枕心	心島	鳥織名	行瓶草	め能	能	能	能	能	能	能	能	能	能	能
完下	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上
水人	山花	村山	川山	舟山	舟山	舟山	舟山	舟山	舟山	舟山	舟山	舟山	舟山	舟山
水人	山花	村山	川山	舟山	舟山	舟山	舟山	舟山	舟山	舟山	舟山	舟山	舟山	舟山

目次

- 第一號 村井長庵巧破傘 八幕 全一冊
- 第二號 慈江戸小腕達引 三幕 全一冊
- 第三號 怪談月白笠 森 五幕 全一冊
- 第四號 淨島衛 瑠月白浪 五幕 全一冊
- 第五號 淨木間星箱根鹿笛 四幕 全一冊



狂言百種 故河竹默阿彌作 各實價二十錢 郵税六錢

全書實錄

全十卷 實價十五錢郵稅四錢宛 全部十册金一圓二十錢

稗史俗傳は唯で堅め老后講釋はそら事多し世人既に今日正史なく實傳なきを憾む弊堂此度嚴秘の古寫本數十卷を得たれば是等を根據として豪雄偉傑の異傳を編し其文體は通俗平易にして傍訓を施し今や其既成の稿本十卷に滿てり因て是を刊行して大方に願つ諸君希くは愛覽を賜へ。

第一卷目次

- 大川友右衛門(御朱印箱の實錄)
- 前田 清繼(加賀騷動の實錄)
- 奥平 源八(市谷復讐の實錄)
- 根岸 領衛(刺殺奉行の實錄)
- 後藤 又兵衛(黒田家臣の實錄)
- 矢部 定謙(市尹駿州の實錄)
- 杉田 笠波(越前家老の實錄)
- 法華 丈助(遊學往生の實錄)
- 岡村 十兵衛(土佐村吏の實錄)
- 高田屋嘉兵衛(遠城商人の實錄)
- 大石 貞虎(有職譜伯の實錄)
- 製茶 御前(遠海遊學の實錄)
- 上越 市兵衛(下関忠義の實錄)
- 法界 坊勤(化名僧の實錄)

第二卷目次

- 山口 長政(遊學傳説の實錄)
- 松本庄右衛門(氏權強訴の實錄)
- 神谷 轉(仙石騷動の實錄)
- 渡邊 敏馬(上野敵討の實錄)
- 松前五郎兵衛(伏客危難の實錄)
- 石河 政方(奉行名断の實錄)
- 瀧田 彌兵衛(團人降服の實錄)
- 中山 愛蔵(殿中問答の實錄)
- 佐々木 泉(女涙人の實錄)
- 荒木又右衛門(上野敵討の實錄)
- 近藤 虎徹(刀工出身の實錄)
- 三宅 康盛(龜山領主の實錄)
- 大田 千江(別荘遊の實錄)
- 蔵田 勘助(詩思の實錄)

第三卷目次

- 小野川喜三郎(有馬力士の實錄)
- 脇坂 七兵衛(前田家臣の實錄)
- 定西 法師(假傳入道の實錄)
- 北條 泰時(鎌倉執權の實錄)
- 曲垣 盛澄(馬術達人の實錄)
- 戸谷新右衛門(紀州義民の實錄)
- 支倉 常長(羅馬遣使の實錄)
- 源慶 正常(片腕刀工の實錄)
- 左 甚五郎(彫刻名匠の實錄)
- 松田 小次郎(鏡山復讐の實錄)
- 榎園院長兵衛(江戸俠客の實錄)
- 山城屋 和助(明治藩術の實錄)
- 秋田 主馬(高田騷動の實錄)
- 馬場三郎兵衛(大飲酒家の實錄)

第四卷目次

- 宮本 武藏(大劍術家の實錄)
- 阿 法印(市村座主の實錄)
- 平賀 源内(風來山人の實錄)
- 徳川 吉宗(八代將軍の實錄)
- 文珠 九助(伏見俠客の實錄)
- 山中 鹿之助(尼子家臣の實錄)
- 伊達 宗重(仙臺騷動の實錄)
- 金 忠輔(外征傳人の實錄)
- 清水 新次郎(橋樑傳人の實錄)
- 深井 志道(社説傳人の實錄)
- 伊勢屋 芳芝(芝居女隊の實錄)
- 本間 孫四郎(弓馬達人の實錄)
- 高橋作左衛門(奇術奉行の實錄)
- 堀川 英代(公入殿の實錄)

第五卷目次

- 浦井 英敏(新潟騷動の實錄)
- 小林 平八郎(吉良家老の實錄)
- 阿蘇權右衛門(那波力士の實錄)
- 吉村 ねづ(武蔵女子の實錄)
- 本部 勝助(大坂復讐の實錄)
- 高倉長右衛門(合津浪人の實錄)
- 鈴鹿 萬吉(野人修行の實錄)
- 増田 甲斐(露國外官の實錄)
- 日遊 上人(法華祖師の實錄)
- 山本 勘助(武田家臣の實錄)
- 河 太郎(奇行家臣の實錄)
- 嶋津 久光(明治功臣の實錄)
- 伊能 忠敬(測量名家の實錄)
- 古河 歐陽圃(演劇作者の實錄)

第六卷目次

- 英 一蝶(文人畫伯の實錄)
- 資田 孫兵衛(義士烈婦の實錄)
- 林子 平(愛國傑士の實錄)
- 大國 俊紫(天満騷動の實錄)
- 杉田 玄伯(洋學開祖の實錄)
- 徳川 齊昭(水戸烈公の實錄)
- 岡 契(博學名僧の實錄)
- 熊澤 了介(蕃山先生の實錄)
- 式亭 三馬(戯作大家の實錄)
- 石井 了て(少女復讐の實錄)
- 扇屋 盛河(妓樓仁主の實錄)
- 河村 瑞賢(御傳人の實錄)
- 三笑亭 可樂(滑稽中興の實錄)
- 武田 耕雲齋(尊攘志士の實錄)

第七卷目次

- 本多 重次(鬼さく左の實錄)
- 木内 宗吾(佐倉騷動の實錄)
- 市川 團十郎(元祖名優の實錄)
- 柳 源信(悪心僧部の實錄)
- 乙骨 耐軒(江戸儒者の實錄)
- 佐野 克十郎(福井敵討の實錄)
- 錢屋 五兵衛(貿易商人の實錄)
- 後藤 才次郎(陶器名工の實錄)
- 池野 大雅(文人畫伯の實錄)
- 木間 小熊(神道劍客の實錄)
- 和佐 大八郎(弓術達人の實錄)
- 浮田 民十郎(福井敵討の實錄)
- 越後 傳吉(孝子雄談の實錄)
- 近松門左衛門(曲作者の實錄)

第八卷目次

- 車 善七(乞食頭取の實錄)
- 柳生 宗矩(兵法達人の實錄)
- 大高 源吾(淺野家臣の實錄)
- 福 源空(圓光大師の實錄)
- 徳川 光圀(水戸世門の實錄)
- 二宮 尊徳(殖産大家の實錄)
- 春名 修理(播磨勇士の實錄)
- 荒瀧音右衛門(大坂力士の實錄)
- 金若板井九郎(江戸俠客の實錄)
- 板倉 重宗(所司代官の實錄)
- 多田 千次郎(時入村竹の實錄)
- 高桑利右衛門(羽州義民の實錄)
- 島井 宗室(博多豪商の實錄)
- 松葉屋 湖川(吉原復讐の實錄)

第九卷目次

- 伊藤 仁齋(古學淵儒の實錄)
- 久米 幸太郎(復讐義賊の實錄)
- 千蔵三郎兵衛(浪士復仇の實錄)
- 黒澤 登喜子(烈女艱苦の實錄)
- 堀 保己(一昔昔學者の實錄)
- 赤目 新兵衛(乞食立身の實錄)
- 市川 海老蔵(俳優巨擘の實錄)
- 附五代目團十郎及七代目團十郎松下 助三郎(芥川敵討の實錄)
- 阿部 忠秋(澤川騷動の實錄)
- 村上 佛山(俳諧詩家の實錄)
- 本田 忠勝(編綴切符の實錄)
- 本居 宣長(國學開祖の實錄)
- 夢 一郎兵衛(有名俠男の實錄)
- 翠 香院(眞俠妓の實錄)
- 村上 文内(新撰神道の實錄)

第十卷目次

- 平 將四(天慶擾亂の實錄)
- 宇津木 靖道(天満騷動の實錄)
- 僧 桃水(弾珠三昧の實錄)
- 孝子 萬吉(山田楓光の實錄)
- 渡邊 華山(俳諧畫伯の實錄)
- 谷村 計介(軍人總長の實錄)
- 猪野 平太(頼政射敵の實錄)
- 豊田 天功(水戸修史の實錄)
- 松平左兵衛督(吉井信發の實錄)
- 國 性齋(明初忠臣の實錄)
- 國定 忠次(上毛傳徒の實錄)
- 八代目成田屋(唱騷俗謡の實錄)
- 山内一豊室(戰國烈婦の實錄)
- 直助 植兵衛(不忠賊子の實錄)
- 金 忠輔(北海傳夫の實錄)
- 眞女 一(對貞操論議の實錄)



宮崎三昧編輯校訂 珍次發行菊版美本 百書 價十二錢 郵稅四錢

此書一たび出で、鬼神哭せし山川城が天粟を降さず雨も降らず風も吹かず至て平穩上日和なり之を平凡といへば誠にも平々凡々一向詰らぬ詮議なり但一たび此書を細く者は再び手を釋く能はざる面白味あらん

聚芳十種

諸大家傑作 聚各一卷十卷讀切 芳四六版美本 十價一巻十二錢 種郵稅四錢

- 一巻 香雪 散人著 花の種 全一冊
二巻 紅葉 山人著 新色 懺悔 全一冊
三巻 山田美 妙齋著 やたらじま 全一冊
四巻 南翠 臥待 月 全一冊
五巻 抱一庵 閣中 政治家 全一冊
六巻 廣津柳 糸のみだれ 全一冊
七巻 三味道人 戀の重荷 全一冊
八巻 忍月 著 金村 全一冊
九巻 幸堂 著 さしきげん 全一冊
十巻 竹の舎 主人著 雪達 摩 全一冊

美しく、舞ふ陽炎のうらぐと、野をも山をも霞こめて、何處も花の香に遊ぶ、雄蝶雌蝶の後やさき、揚るは雲雀、啼くは千鳥の長閑なる時、庭前に降る花を斜めに見做して、春日机の上に本書を緋けば、聚芳十種の濃く淡く、世をも人も打忘れて、巻を捲ふに忍びざるべし。

四の緒

紅葉眉山合作 柳浪鏡花 緒の四 實價二十錢 郵稅四錢

時正に初夏、新緑を深らすの下、一張の琵琶を抱いて平語を彈するが如きものは小説四の緒の妙趣なり、紅葉山人の歴理三箇條、眉山人の左獲、柳浪子の百合合、鏡花子の館壁夜半録の四種は、正に其緒を進行し出でたる時想の精練なるものにして、暇後の風雲尙寂寥たる今日、恰も荒涼悽愴たる秋の野に、一糸の彩雲を柳曳きしが如くなるべし、以て文士學者が机上の友として其詩情を味ふの妙あるべく、以て才子佳人が悠遊の途に伴ふて、情の變遷まるなきを知るべく、巻を披けば字々悉くこれ時、其時はこれ情、情によつて景來り、景によりて風致動く、近業中の白眉なるものを、合巻小説四の緒とすは非ず。



修身書 全十巻合本上下 二帙菊版美本 實價一帙廿五錢 郵稅八錢宛逸事佳話數百件を集む

世間の修身書多しと雖も兒童の心に面白き者ならでは飽きて讀まざるの憂あり然りして中庸を外れたる狂談時人の行を記したる事は面白にして他の色に染み易き少年の天性に對して教化の目的を誤まること少からず此書は文明の時世に適當なる面白き立派修身の談を和漢洋の歴史官書等に求め平易の文體を採り假名を施し圖畫を挿み少年をして讀んで飽まざるの間に不知不識徳性を養ふの目的にて編纂したるものなれば學校の教師并に家庭の教育を任する父兄は毎刊必ず一本を購ふて兒童の教導に備へ給はんことを乞ふ。



歴史叢書 實價一冊廿五錢 郵稅八錢宛逸事等百餘件を集む

此編は兒童に歴史中の事蹟を知らしめ娛樂の中に我前賢濶達爽快の流風遺韻を咀嚼せしめ高尚健全の氣風を涵養せんとの目的なり記する所一歩々道徳を顧みず勸善懲惡を附會せずされど兒童の腦髓を潤濁にすべき不潔の事蹟を混入せず

百奇夜講

百奇夜講 紅葉山人

一たび巻を把つて披けば、黒霧忽ち起りて、坐上冥々晦々の間、美人號び、魔神晒ひ、勇士劍を揮ひ、枯骨草に跳る。奇絶、怪絶、立案毎に意表に出で、晴天霹靂を轟かし、着想一々變幻を極めて、月夜白虹を望むが如し。實に是れ文章の百鬼夜行、世界唯一の譚數なり。

部之書術美



美術世界は全圖畫大家の賛成を得て... 印刷する小説雑誌の類... 彫工の苦心摺師の手際緻密巧妙を極め... 摺立てたる後の物とは其の緻密巧妙の上... 摺立てたるものも数千部を... 摺立てたるものも数千部を... 摺立てたるものも数千部を...

美術世界は廿五巻にて完結各一冊實價三十錢十冊二圓八十錢郵税一冊に付四錢郵券
代用は壹割増二錢切手に限る 全部廿五巻御注文は金七圓郵税八拾錢

Table listing contents for '美術世界' (Art World) volumes 1 through 7. Includes titles like '美術世界第一卷目次', '美術世界第二卷目次', etc., and lists of authors and artists.

東京春陽堂發行書目之內三十八

Table of contents for Tokyo Spring Yangdoang's publications, including titles like '美術世界第九卷目次' and '美術世界第十卷目次', listing authors and publishers.

東京春陽堂發行書目之內三十九

Table of contents for Tokyo Spring Yangdoang's publications, including titles like '美術世界第十四卷目次' and '美術世界第十五卷目次', listing authors and publishers.

一十四内之目書行發堂陽春京東

次	目	美術書
○第一號	長澤雪	美術書
○第二號	丹野雪	美術書
○第三號	狩野雪	美術書
○第四號	美野雪	美術書
○第五號	獅子遊	美術書

●美術世界第廿五卷
花鳥集 十二圖

●額面形幅二尺三寸縦一尺五寸

成歡敵壘陷落の圖

甲斐榮一郎氏畫
定價金八錢五厘
郵税 貳錢

編輯明其野中

尾形流印譜

尾形流百圖

美術名印部類
國風畫の部

實價三十錢
郵税四錢

十四内之目書行發堂陽春京東

●美術世界第十九卷目次	●美術世界第二十卷目次	●美術世界第二十一卷目次	●美術世界第二十二卷目次	●美術世界第二十三卷目次
浮世主 世光主 世光主 世光主	川崎千虎 川崎千虎 川崎千虎 川崎千虎	久保田米僊 久保田米僊 久保田米僊 久保田米僊	川崎千虎 川崎千虎 川崎千虎 川崎千虎	川崎千虎 川崎千虎 川崎千虎 川崎千虎



東陽堂發行 白露之集 五錢實價 金廿

Table listing book titles and prices for 'White Dew of the East' (白露之集), including 'The City of the Capital' (京城之卷), 'The Island of the Second Volume' (第二卷之島), etc.

Table listing book titles and prices for 'The True Scenery of the Plain' (平壤之眞景), including 'The Battle of the Plain' (激戰中), 'The True Scenery of the Plain' (平壤之眞景), etc.

Table listing book titles and prices for 'The True Scenery of the Occupied Land' (占領地眞景), including 'The True Scenery of the Occupied Land' (占領地眞景), 'The True Scenery of the Occupied Land' (占領地眞景), etc.

新三國誌

新三國誌 實版美裝 郵稅十五錢

朝鮮支那諸名士詳傳並肖像挿入

我日本帝國は朝鮮の獨立を扶植し大に... 支那彼何物ぞ

槇本海軍中將序 毛鐵道人著

清佛海戰日記 定價二十錢 郵稅四錢

口畫

福州城廓 全圖寫真石版

本會は多年支那各地に官遊したる有名なる北清見聞録の著者仁禮...

古今史譚

古今史譚 全五冊紙數每冊二百頁以上全部一千一百頁餘製本古雅

近來の史家中名聲著たる樂真子後淵生の二氏會て正確なる古文...

第一卷目録

信玄謙信の有難 信玄謙信川中島格闘の説と...

第三卷目録

山本勘介は山縣氏の一部卒に過ぎず加藤明成封土還納一件...

修身書とさ

全四冊和綴半紙版中書數十個挿入製本優雅...

衣服裁縫獨案内

全二冊 實價十八錢 郵稅四錢

工書教授案

實價廿五錢 郵稅四錢

民約論覆義

日清文明論

支那軍歌全集

新詩學必携

明治和歌教草

唐詩選

幼學便覽

法學士原田階譯述
郵實 稅價 六十五錢

松島剛舟序
郵合 稅價 二十五錢

支那軍歌全集
郵實 稅價 八錢

新詩學必携
郵實 稅價 七錢

明治和歌教草
郵實 稅價 二十五錢

唐詩選
郵實 稅價 四十二錢

幼學便覽
郵實 稅價 五錢

世文體明辨

活用文證大全

後藤五經

四書集註

岡田三四郎著
郵實 稅價 四錢

伊藤半桂著
郵實 稅價 八錢

片岡八郎著
郵實 稅價 五錢

中野實著
郵實 稅價 六錢

明倫彙編
郵實 稅價 七錢

丁巳年
郵實 稅價 八錢

全書
郵實 稅價 九錢

東京活用字典



目次 總論 都々逸 季寄 都々逸 季寄 都々逸 季寄... 珍寶 一冊 稅價 十二錢

眞州千字文

明算法新書

郵實 稅價 四十一錢

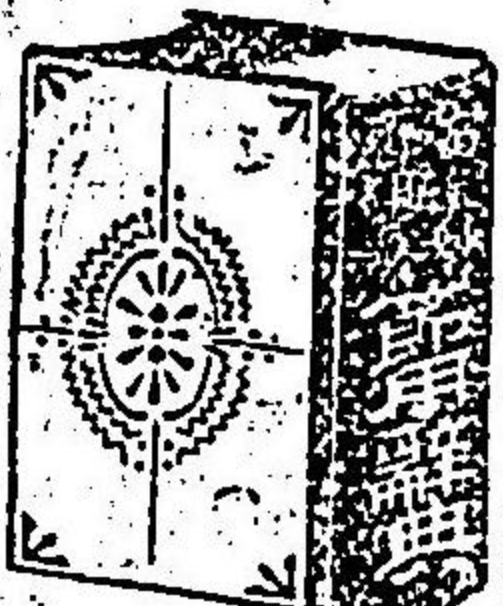
天下稀有之一大珍書

色情狂編 全一冊 其情慾... 夫婿の遺漏 男の男を戀ひ、女の女

色情界の事 雖も之を理 解し得べし

二百冊 實價卅五錢 郵稅六錢

評會學醫法京東本日



附錄 新式 辭用節 七總中郵實山 價田美妙 百本稅四十八 頁美八 餘製錢錢著

著者 日清交戰軍用地圖 實價九錢 郵稅貳錢

我征清軍の進みたる處、攻取を加へたる處、占領したる處を知らんと欲せば、日清交戰軍用地圖を見よ、本圖は尤も見易く且地球に害を及ぼさざる事を見れば進物などには最も適切なるべきものなり。

諸大家 傑作 小説花籠 實價八錢 郵稅四錢

大日本臺灣朝鮮全圖 折一各 定價廿錢 實價五錢 郵稅貳錢

北支那全圖 折一各 定價五錢 實價三錢 郵稅貳錢

征清軍一たび起りて我が軍連戰連捷の結果臺灣全島及び澎湖列島皆帝國の新版圖に歸す

して平和茲に克復す、吾人生れて大帝國の臣民たる者誰か其地形風土を知悉せずして可ならんや、又遼東半島は我れの彼れに還附すべきの地たるも是れ我が軍が百戰千闘血を流し骨を暴らして占領したるもの亦之を忘るべからず、本圖は實地百萬分一圖にして極めて精確なる材料に據て之を編纂し特に臺灣圖は物産々地の如き一々之を示し、又遼東半島日清交戰地は悉く一種の記號を以て之を標示し眞に一目瞭然覽者をして其の遺憾なからしむるを期せり、若し夫れ朝鮮全圖及び北支那圖も亦均しく精確詳密固より臺灣圖と其撰を同ふす且三國共に真而には亞細亞全洲圖及び日清韓三國連絡地圖を印刷して以て容易に彼是の關係を明知するの便を計れり故に此の三圖は編纂實に精確にして印刷鮮明紙質善良、寔に忠誠勇武なる帝國々民に向て其要望を充たすの點に於て優に世上幾多の地圖中嶄然一頭角を顯はせると信じて疑はざるなり。

石黒忠惠先生評序 谷口神太郎君纂譯 通俗病理問答 第一編 實價十八錢 郵稅四錢

第一章 人體構造の概略 第二編 實價十八錢 郵稅四錢

第二章 呼吸器の構造 第三章 消化器の構造 第四章 泌尿器の構造 第五章 生殖器の構造 第六章 皮膚の構造 第七章 血液の循環 第八章 神經の構造 第九章 感覚器の構造 第十章 運動器の構造 第十一章 内分泌腺の構造 第十二章 免疫の機構 第十三章 病態の發生 第十四章 病態の進行 第十五章 病態の終結 第十六章 病態の回復 第十七章 病態の予防 第十八章 病態の治療 第十九章 病態の検査 第二十章 病態の診断 第二十一章 病態の鑑別 第二十二章 病態の予後 第二十三章 病態の経過 第二十四章 病態の變遷 第二十五章 病態の併發 第二十六章 病態の合併 第二十七章 病態の連鎖 第二十八章 病態の連鎖 第二十九章 病態の連鎖 第三十章 病態の連鎖

通俗病理問答 第一編 實價十八錢 郵稅四錢

第二章 異物の侵入 第三章 異物の排出 第四章 異物の吸収 第五章 異物の代謝 第六章 異物の排泄 第七章 異物の貯留 第八章 異物の變質 第九章 異物の硬化 第十章 異物の溶解 第十一章 異物の凝集 第十二章 異物の分裂 第十三章 異物の融合 第十四章 異物の變形 第十五章 異物の變色 第十六章 異物の變味 第十七章 異物の變臭 第十八章 異物の變性 第十九章 異物の變態 第二十章 異物の變種 第二十一章 異物の變類 第二十二章 異物の變系 第二十三章 異物の變族 第二十四章 異物の變科 第二十五章 異物の變目 第二十六章 異物の變綱 第二十七章 異物の變門 第二十八章 異物の變界 第二十九章 異物の變域 第三十章 異物の變界

間福利○階級●資質の區別●發力の強弱
此書は人體解剖の細圖を付し各自治療の出來得る
様藥名調合法及養生法等詳細に記載あり

橋爪 男女交合新論

全六十頁
郵税四錢

本書は東京淺草山左吉なる者所著なる類例偽板出版致し
直に差止候へ共地方賣捌へ直段の安き爲め回り居り候哉も難
計候間著者及出版所御吟味の上御買問違なき様御注意願上候
●目錄●第一交合は最も貴重すべし●第二愛情は情人と交合せん
の望みに出●第三交合は男女の播造愛情及び婚姻の精神たり
第四交合の適否に依り利害苦樂を異にす●第五交合の目的及び其
方法は第六兩親の形狀性質等は其見に違限す●第七父母たるべき
者は未生兒の爲に其才徳行狀を修養すべし●第八精神の愛は發生
に必要なり●第九精神の愛を以て爲す交合は淫慾の爲に爲す交合
よりも許多の快樂を生ず●第十精神の愛は淫慾を離し淫慾は精神
の愛を離す●第十一愛情と生殖器とは相感應す●第十二愛情と交合
には陰具動張し厭忌する人には陰具萎縮す●第十三愛情と交合
には必ず相伴ふ●第十四甲に愛情ありて乙と交合するは益道を重
ぬるなり●第十五情慾は發生に必要なり●第十六交合には男女と
も盛に情慾を發動すべし●第十七情慾は女子にありて最も重要
なり●第十八女子は男子をして情慾を發動せしめ生殖の功を遂る
義務を負ふ●第十九交合の時女子淫慾を生ぜれば男女共其害を
受く●第二十男女淫慾を交換せざれば激怒を生ず●第二十一淫慾の夫
に忠告の言●第二十二女子の情慾少き理由及び是を發生せしむる方
法●第二十三孕胎の後は交合すべからず●第二十四新婚の夫妻に忠告
の言●第二十五父母の望に隨て男兒或は女兒を生す得べき法 附覽

生子の就●第廿六胎生に可なる日時を論ず●第廿七交合に付ての
注意●第廿八交合は全身の作用を促助す●第廿九精神の喚起と差
恥は胎生に害あり●第卅情慾を節制するは害あらざる説●第卅
一亂雜の交合は爲すべからず●第卅二妾を蓄ふる害を論ず●第卅
三避孕は天理に背く事●第卅四妾を控へる害を論ず●第卅五精
神の愛は避孕の良法なる事●第卅六子宮なき原因及び其治法を論ず
●第卅七陰部解剖の學を世に普及する事の必要なる説●第卅八精
蟲の就●第卅九卵丸の播造及び其効用●第四十陰莖の播造及び其
効用●第四十一尿道と攝陰線との播造及び其効用●第四十二龜頭
と包皮との播造及び其効用●第四十三子宮の播造及び其効用●第
四十四陰道の播造及び其効用●第四十五卵巣卵管の播造其
効力●第四十六男女の陰具は互に能く適合す●第四十七陰具の摩
擦は全身の作用を起す●第四十八壓力は交合に必要なり●第四十
九孕胎の就

男女自衛論

合卷 實價十八錢
郵税四錢

- 卷之一 房事の事
- 卷之二 手淫及多淫の害
- 卷之三 遺精生殖無功并に生殖不能の論
- 卷之四 淋病、滑濁、尿道狹窄、膀胱淋病、
腎丸腫及膀胱帶の病
- 卷之五 婦人手淫の害

名將言行錄

田口文之序并評
安井衡閣古賀燦評

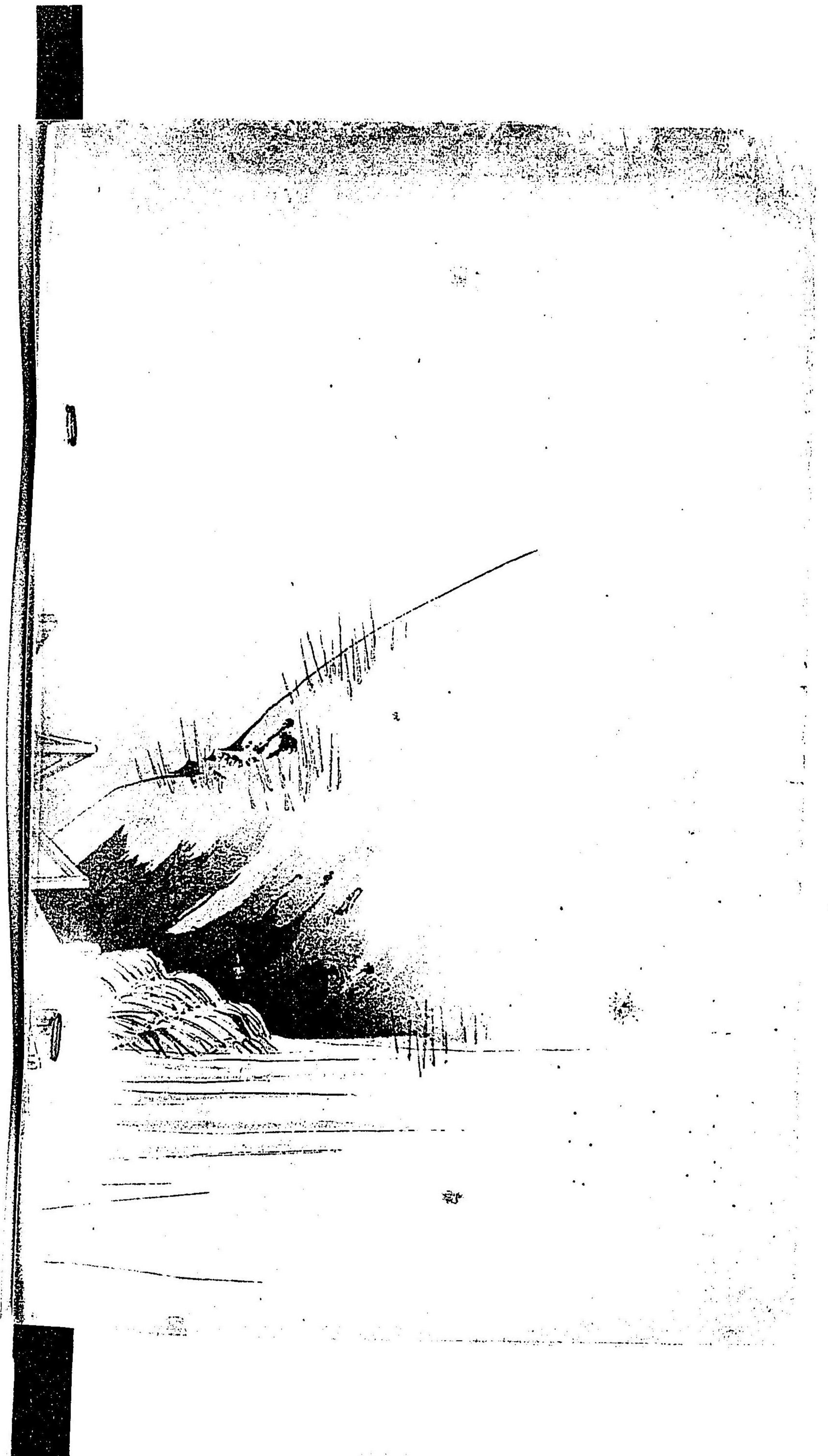
故三條實美公題辭
岡谷繁實著
谷氏嚮に此書の編纂を企てたるは實に安政甲寅の歲に於て
涉獵する事殆ど一千二百五十一部之多きに達し漸く明治
剛校訂したる其間の辛苦實に言ふべからず然して編纂の
逝去年月等を叙し更に年代實歴を擧げて言行を現叙した
全氏現全編成二(一)太田資長全資正長野繁正(二)尼子經久
重(四)毛利元就全秀元(五)吉川元春全長全廣家(六)小早川隆景(七)武田晴信(八)武田信繁板垣信形
原虎胤山本晴行甘利晴吉(九)馬場信房山縣昌景(十)高坂昌信内藤昌豊(十一)真田幸隆全昌幸全信幸
十六)上杉輝虎(十三)上杉景勝(十四)宇佐美貞行本莊繁長甘糟景持全清長(十五)直江兼續藤田信吉
光春(十九)細川藤孝全忠興(二十)前田利家(廿一)蒲生氏利長全利常全直政全直政(廿二)稻葉貞秀
中川清秀前田玄以森長康山内一豊池田輝政(廿三)蒲生氏郷竹中重治(廿四)鍋島直茂加藤嘉明(廿五)豊田
秀家全直家(廿五)島津義久全義弘全家久伊達政宗(廿六)増田長盛渡邊了伯(卅一)立花宗茂(卅二)稻葉貞盛
中吉政(卅九)黒田孝高(三十)黒田長政輝須賀政富(卅一)増田長盛渡邊了伯(卅一)立花宗茂(卅二)稻葉貞盛
則可見吉長福島治重大崎長行吉村宣光(卅五)加藤清正(卅六)石田三成島友之小西行長(卅七)藤堂高虎
(卅八)京極高次寺澤廣高松倉重政仙石秀久脇坂安治(卅九)片桐貞盛木村重成後藤基次(四十)眞田幸村
全幸昌

大賣捌所

東京市日本橋區通四丁目

春陽堂

全部四十卷洋紙刷和裝大形本紙數一千三百八
十頁映入合本四冊實價一圓八十錢運送費廿錢



水車

江見 水蔭

特 8
60

094216-000-3

特8-60

水車

江見 水蔭 / 著

M28

DBQ-1705

